

保育の質を高めるために

東京大学大学院教授 秋田喜代美
1月9日尚徳福祉会

保育・教育の質を決めるもの



保育の質 多様な側面

- 構造の質(施設や設備、担当園児数)
- **保育過程の質(実践の過程、経験の質と内容)**
- 成果(結果)としての質(身についたもの)

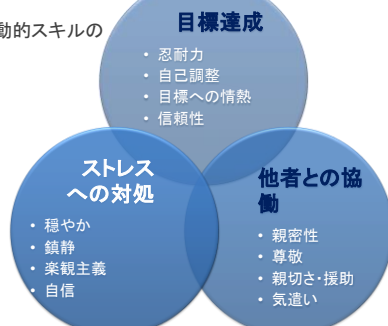
私たちは、子どもたちにどのように育ててほしいのかという願いと共に、保育のありようを考える事が大切。

生涯における育ちの基盤として何が大事か？

21世紀社会を見通して、考える。

OECD 社会情緒的スキル

社会情動的スキルの
枠組み



くらしの質としての豊かさとは

生活者として

- 「豊かさとは、ちょっと、すこし、わずか、かすか、ほのか、こまやか、ひめやかというようなことをさやかに感ずる能力から生まれることをいう」

(野口,1996)

- Concern, Care, Connectedness
興味関心、他者への思いやり、
つながりあう絆

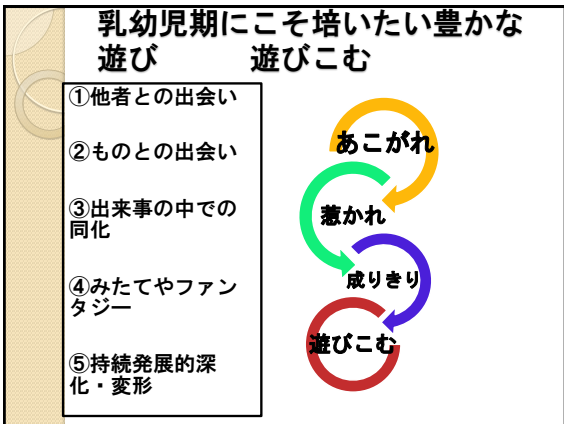
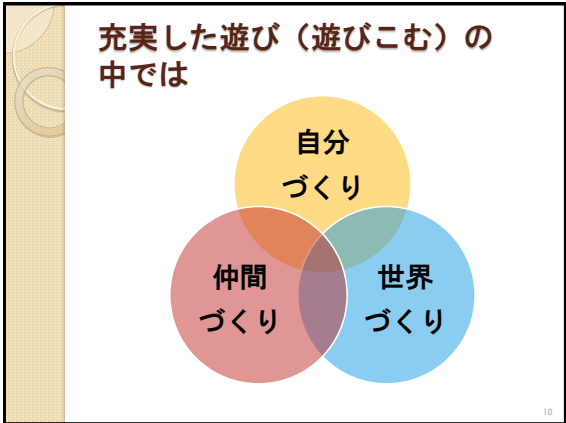
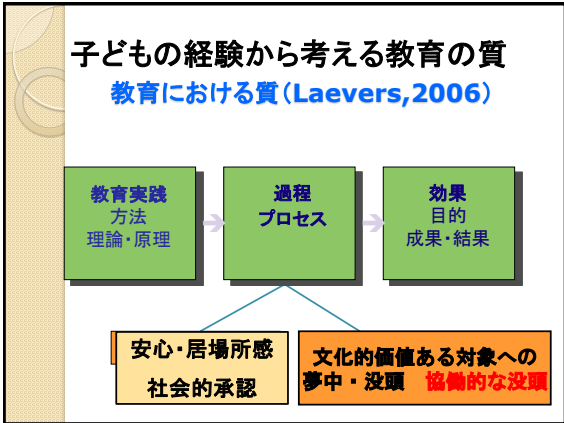
(Martin, 1992)

感性を大事に培うこと

1 保育過程の質としての「安心・夢中」を保障する

1) 子どもの声を聴き取ること

- できない部分にばかり焦点をあてないで、できる部分できようとする部分を見ていくと子どもの素晴らしさがみえてくる。



2) 関わりの質としての 応答性と感受性

各園で考えてみませんか？ 実践で大切にしたいこと

東五（東五反田保育園、2011）の掟

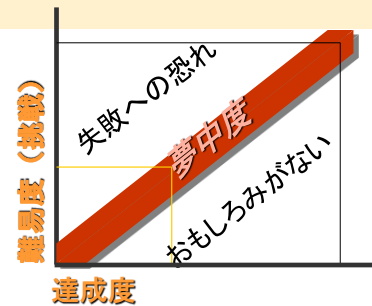
- 1 子どもの疑問に答えを出さない
- 2 子どもの考えを否定しない
- 3 関心のない子には直接働きかけない
- 4 止める必要のある行為に対して、その子の気持ちを受け止めながら行為だけを否定する

2 挑戦を支える活動と環境

1) 子どもが伸びる時



課題、環境、子どもと保育者の協働による
相互の足場かけ 発達の最近接領域



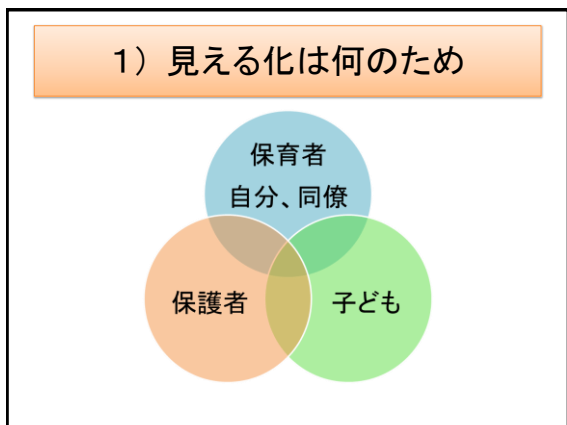
2) 子どもの日々の経験を支える環境

子どもの経験から考える 保育の活動と環境（PEMQ）の質

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 安心感・居場所感を保証する環境 1 身体が休まる 2 一人や仲間内だけで居られる 3 大事に見守られている感覚（暖かさ、自然との共生） 4 私、私たちの場の感覚 | <ul style="list-style-type: none"> • 夢中になることを保証する環境と活動 1 関わりたくなる 2 利用しやすい 3 続けたいくなる 4 足跡がある 振り返り見通しができる |
|--|---|



3 保育者の笑顔が生まれる研修のために



- ### 2) 協議会の対話での工夫のために
- 子どもの事実をみとり語る
 - 子どもの事実から学んだことを語り合う
 - 明日からでもできることを語ってみる

問題解決型アプローチ	卓越性探究型アプローチ
1 • 問題の診断特定	1 • その子の強み、価値を発見
2 • 原因分析	2 • 展望やビジョンを作る
3 • 可能な指導法を分析	3 • 対話する
4 • 指導計画	4 • 変化に同行し承認していく

2つの志向性の中で

